

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200702
法人名	トータル・メディカル津沢株式会社
事業所名	グループホームひだまり街なか
所在地	富山県高岡市博労町5-13
自己評価作成日	令和3年5月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル 1 階		
訪問調査日	令和3年6月25日	評価結果市町村受理日	令和3年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの個性や能力にあったケアを行い、その人らしさを大事にできるように心がけ、本人だけでなく家族や友人の方々にも安心して頼りにしてくださるように、信頼関係の構築や環境整備、レクリエーションなどに努めています。また、地域との交流も温かく接していただけるように、日頃から交流できるように努力しています。医療との連携も一方的にならぬように相談、連絡、情報共有できるようにしています。利用者様の「笑顔」を大切に日々のケアに取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

高岡の伝統や趣を感じる街なかにあり、その街並みになじんだ佇まいのひだまり街なか。18名の方が生活されており、そこに働くスタッフは「ペースに合わせて寄り添い笑顔で支援します」という事業所理念を掲げてケアを行なっている。法人全体で6箇所のグループホームがあり、グループホームそれぞれのカラーを生かした研修が企画されるなど教育体制も整備されている。また、スタッフ個々のライフスタイルに応じた働き方にも配慮され、働きやすいというスタッフの声にもつながっている。サービスであって生活の場でもあるグループホームとはどんな場所なのかをスタッフと深掘りし、共有していきたいと話す管理者を先頭に一步一步歩みを進めている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面があ る。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の 人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者 とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解 者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	グループホームひだまり街なか			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関や事務所に掲示しており、パンフレットやホームページにも記載している。事業所独自の理念も、職員からの意識調査などから作成し、実践に向けて努めている。	法人の理念を基に管理者やスタッフの意見を集めて事業所の目標を作った。「ペースに合わせて寄り添い笑顔で支援します」と事務所や玄関に掲示されており、いつでも振り返られるようにしている。	より具体的な事業所理念の構築まで歩みを進めてきた。構築された事業所理念が、スタッフみんなに行き渡るようさらに歩みを進めていくことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	残念ながらコロナ禍により、地域との交流は減少している。CATVによる地域のニュースなどを流している。	近所へのドライブに出かけたり、ホーム周辺で近所の方と言葉を交わしたりとコロナ禍においても地域とつながりを大切にしている。ホーム内でも地元の祭りの生中継を見たり、広報を見たりと地域の様子がわかるように取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催もコロナ禍で減少しているが、資料のなかで、感染予防対策について説明し、ご理解やご協力を得られるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	火災や災害対策についての意見交換が多いが、利用者が参加できそうな行事への声掛けやまちかどサロンでの利用者作成物の展示提案など協力していただいている。	コロナ禍で集合開催は難しい中、直接委員のところに外向き意見交換をしている。また、議事録は地域包括支援センター等には直接持参し、家族には玄関に掲示し確認できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	通達や介護保険制度の解釈等の問い合わせは、随時電話やメールで聞いている。メールでの市からのアンケートにも答え協力している。	市とはメールや電話でやりとりをしている。最近ではコロナウイルスに関することや災害時のこと、介護保険改正にまつわることで情報交換を行なった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年度から身体拘束廃止委員会を事業所内に設け、ミーティングや研修等を開始している。本年度からは、法人全体の委員会を立ち上げ、社内全体で研修、研鑽していく体制を作っている。	年に4回委員会を開催し、ケース検討をしたり、スタッフにふりかえりアンケートを実施したりしている。今年度から法人全体の委員会もでき、社内全体で研修等行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として、必ず虐待に関しての研修を行っている。本年度は、法人全体での虐待、拘束廃止の委員会を設立し、研修をはじめとして、職員全員で意識を統一するように心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方はいないが、申請中の方がいらっしゃるの、今後は制度を利用される予定である。また、過去には成年後見制度を利用された方もいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明と共に契約書全文読み上げ説明して、質問や心配ごとなどないか確認し同意をいただいている。解約や改定時も家族と時間をとり、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関先に設置している。毎月、家族に利用者様の状況を職員が自筆で報告させていただき、家族が意見を書き込む欄も設けている。感謝の返事を頂くことがある。	家族には、毎月ホームでの様子を「ひだまり通信」というお知らせを作成し報告している。通信には返信欄があり、そこから意見がくることもある。家族がホームに来られた際には直接意見を聞き取り、それらを運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時に職員から意見を聞くようにしている。その意見を管理者会議等で法人に伝えている。	毎月のミーティング内で意見が上がったり、現場主任らが現場からの意見を吸い上げたりしている。協議が必要な意見は、適宜管理者会議で検討し、それを現場にフィードバックしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や通勤距離等も考慮し、勤務地の決定をしている。希望出勤日数もシフト作成時留意し、調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の人事考課をもとに、本人の目標達成や日頃の勤務態度などを通し、その都度面接等で話をしている。研修も法人のみならず、外部研修への参加を推進し助成している。資格取得も推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会や介護福祉士会等での研修や講習への参加を推奨している。自社内でのグループホーム職員での研修会などもしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境が変わることへの不安感やストレスに配慮し、こまめに声掛けを行い困りごとや不安・要望などないか聞き取り、安心していただけるよう関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の人間関係や経済的事情等、プライバシーへの配慮をしながら相談を受けている。要望に関しては対応可能な事とそうでない事の説明を丁寧に行い信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みの段階で、現在受けておられるサービスや生活状況を聞き取り、入所されてからの生活で提供されるサービス内容を説明し、必要なサービスを継続して受けることが可能かどうかを詳細に説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を見極め、家事や調理など本人ができることや、やりたいことを職員と共に行うことで共同生活を行っている者同士である意識づけができるように関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族事情を踏まえながら、できるだけ本人と一緒に過ごす時間が持てるよう、定期受診や外出・外泊を促している。面会時間に関しては制限を持たずゆっくりと過ごしていただくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と馴染みの面会者が来られた場合など、プライバシーに支障がない範囲で最近の様子や状態などを説明したり、一緒に記念写真を撮ったりしている。また、馴染みの街並みを楽しんでいただけるようドライブなども行っている。コロナ禍では、電話をかけたりしている。	家族や友人への電話や「ひだまり通信」でホームでの様子を伝えるなどして、大切な人との関係をつないでいる。また、今のところ行われたことはないが、リモートで面会できるよう環境が整っている。	コロナ禍で馴染みの関係がうすれていきやすい状況下である。そこに配慮し、これまで以上にホーム内での様子を外に発信をし、また双方向でのやりとりが行えるような取り組みに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格などを勘案した座席を提供し、できるだけ孤立しない状況が保てるように配慮している。また、いろいろな利用者とも関われるように、時には座席を移動し、一緒に共同作業やレクリエーションを提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、何か介護保険サービスについての相談や説明が必要な時があれば、いつでも対応することをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で常に本人の思いや意向が把握できるよう意識しながら関わり、職員間で情報を共有し、実現可能となるよう努めている。	好きな食べ物から選挙にまつることまで日々の関わりの中で意向を把握し、支援につなげている。思いの表出が困難な場合は行動のサインをキャッチするよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の担当ケアマネから情報収集したり、家族との面談で聞き取ったりしている。本人の幼い頃のことなどは回想法などにより本人から伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に記入したり、記録の読み返しを行ったりして、職員が利用者の現状を把握し情報を共有できるようにしている。特変や連絡事項などは、日誌にも記載し把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスの場を設け意見を出し合っている。要望を事前に聞き取り、反映させた介護計画の作成に努めている。	ユニットごとのカンファレンスを月1回、全スタッフで行いプランに反映させている。プランの期間は通常6ヶ月であるが、様子に変化が見られる場合はその都度変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはケアの実践だけでなく、対応や判断・考察など、適切な記録ができるよう、説明や指導も行っている。また、介護記録を参考に、計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じてアセスメントを行い、特別なことに関してはできることと、できない事を十分に検討し、柔軟に対応するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民との直接的な交流については、深く持っていないが、施設での生活であっても本人の生活の質の向上を目指し、地域資源を活用できるように検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族の希望に沿う形で決定している。受診の際は、日頃の様子や相談事などを伝えているし、報告書を作成し、提出している。	利用者の希望のかかりつけ医に受診することができ、外来にいけなくなった時など訪問医に変更する相談に応じている。通院時は報告書で主治医に様子を伝えたり、適宜電話や直接訪問した際に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に各利用者の状態報告や介護職員として知りえた情報や気づきを報告・相談し、受診の必要性などの意見やアドバイス等をいただいている。看護師が必要な処置なども依頼し、応じて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	フェイスシート・健康記録・薬剤情報・介護保険情報などの書面の提出や面会時の病院関係者からの情報交換にも努めている。退院前カンファレンスへの出席や看護サマリの提出依頼などしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の説明は重要事項説明書に記載しており、その時々状況に応じて、主治医や訪問看護などで必要で可能なサービスを提供するようにしている。家族への協力と理解を得られるよう日頃からの関係構築に努めている。	看取りの対応をされており、入居時に説明を行っている。法人内に訪問看護ステーションもあり、また、年に1回は看取りの研修を行うなど安心できるような体制が整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練については、社内の研修等などの学びの場を設けている。急変や事故発生時などは、管理者への連絡で指示を仰ぐことにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間を想定した避難訓練を年1回ずつ、計2回行っている。地域の防災訓練にも参加し協力体制を築けるよう努めている。	管理者は地域の防災訓練に参加し、地域との協力体制構築に努めている。火災や水害の避難訓練の確実な実施、備蓄品の準備に加え、最近では市からの災害対応のアンケートを行うことで避難場所等の再確認を行った。	コロナ禍で進められなかった前回のステップ、実情に応じたより安全安心な体制づくりに再度チャレンジいただくことに期待したい。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の性格を把握して一人ひとりの気持ちや個性を大切に自然な形で尊厳を保持できるように取り組んでいる。また、自信を失うことがないように言葉掛けに配慮している。	利用者ごとの性格やこだわりに合わせて、席位置や入浴順などの配慮を行なっている。また、希望に応じて居室で食事いただいたり、プライベートな内容の相談は居室で行うなどの対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を伝えやすいように1対1での対話の時間を持つよう心掛けている。また、自己決定できるように簡単な助言を行ったり、ゆったりと関わるように努めたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	申し出があった時は希望に寄り添えるよう業務の見直しなども行いつつ、意見を出し合い支援するようにしている。また、外出の機会も設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの衣類の交換やタンス内の衣類整理に努め、その時の気分に応じた洋服を選びやすいように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	選択食やホーム喫茶の日を設け、利用者の選択により食事や飲み物を楽しんでもらうようにしている。テーブル拭きや茶碗拭き、配茶等も一緒に行うように努めている。	野菜の皮むきなど利用者が毎日の食事準備を行っており、畑時期には収穫もする。希望に沿ってカップ麺を提供したり、ホタルイカや刺身を買ってきたり、楽しめるような支援を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い献立を立てている。咀嚼や嚥下状態に合わせた形態の食事を提供することで、摂取量も確保している。水分も好きなものを提供し適量摂取するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていただき、清潔保持に努めている。不十分な場合は介助し夜間には義歯洗浄も行っている。毎月、歯科衛生士から技術指導も受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し汚染なく快適に過ごせるように状態に応じた対応をしている。失禁がみられた場合は、利用者の羞恥心に配慮しながら介助している。その中でも自立してできることはしていただいている。	24時間の排泄記録をもとに、ひとりひとりのパターンに合わせた支援をしている。基本はできるだけトイレで(特に排便は)、トイレ内の動作もなるべく自力でというのを心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の水分摂取や運動を勧めている。牛乳の提供や、ゆっくりと排便できるように配慮し、主治医や看護師とも連携し、服薬での改善も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員配置の関係上入浴時間は決めさせていただいている。入浴の順番は本人の希望に添うように配慮している。浴槽に入浴グッズを浮かせたりして、リラックスできる環境作りを心掛けている。	入浴の順番はできるだけ希望に沿うようにしている。一般浴槽とリフト浴槽があり、利用者それぞれの状態に応じて選択し、入浴を楽しんで頂けるよう工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて適時静養の時間を設けている。各個人が安眠を取れるよう室温や環境整備にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報をファイリングして職員全員が見る事が出来るようにしている。症状変化がみられたときは支援経過に細かく記録するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロアで過ごす時間帯は、その時々気分に応じた作業を提供するようにしている。季節感がでるような創作物やその作業の様子などを掲示し、振り返りや次への意欲につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望通りの外出はできていない。屋外行事の企画や、近場の散歩などは行っている。家族にもお願いし外出の機会を増やすように協力していただいている。	コロナ禍であっても、他者と接触しないようにしながらドライブに出かけたり、畑に出たりして外に出る機会を作っている。最近では玄関前でのんびり過ごせるようベンチを設置した。屋外でお茶を飲んだりして活用している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解しているが、紛失や物取られ妄想の原因ともなりうることであり、家族から理解をいただき、所持はしていない。使用に関しては家族の同意のもと、立て替えて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を取り次ぎ会話していただいている。遠方の家族からの手紙にも返信したいとの思いがある場合は対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調節や光の入り方、雑音等にも配慮し不快感なく居心地良く過ごせるように努めている。共用フロアには皆で協力して作成した作品を展示することで、季節感を味わって頂けるよう工夫している。	利用者が季節ごとの装飾を作成している。それが展示してありながらも雑然としておらず、落ち着いた空間になっている。職員の動きが邪魔にならないようにレイアウトを工夫したり、テレビの高さや向きも利用者が見やすいようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の他にソファも設置して、自由に過ごして頂けるよう配慮している。性格や趣味なども把握し、気の合った方と同席するようにしている。同じテーブルでの会話を楽しめるように気配りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持ち込みは、こちらからもお願いしている。入所後も節目の孫の結婚やひ孫の誕生の写真を家族が持参され、つながりを感じられるようにしている。	自宅で使用されていた布団や化粧道具、テーブルとイスなど居心地良い空間となるよう自由にカスタマイズいただいている。また、パソコンや愛用のポシェットなども持参し使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広く空間を使えるように障害物をなるべく置かないように努めている。トイレや居室には張り紙をして場所や物を認識できるように工夫している。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひだまり街なか

作成日： 令和 3年 7月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	20	馴染みの関係の継続に関して、コロナ禍において、希薄に成りがちである。	双方向でのやり取りができるように工夫して、お互いの意見や協力体制を構築していく。	様々なツールを使って情報提供や意見の収集などを行い、結果や経過報告をしていく。	6ヶ月
2	35	災害対策に関して、地域との協力体制の構築が進んでいない。	昨今の自然災害の状況を把握し、危険予知や判断基準などを施設のみならず、地域で共有していく。	運営推進会議の開催や、地域の行事への参加などを積極的に行う。災害での避難訓練を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。